

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究主題について	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の内容	2
	1 評価シートを使った見取	2
	(1) 作成までの経緯	
	(2) 評価シートについて	
	(3) 見取の各視点について	
	2 各学校での実践例	7
	(1) 小学校1年生「じゅぎょうがはじまります」	
	(2) 小学校2年生「書き方の時間のこと」	
	(3) 小学校2年生「ノートのひこうき」	
	(4) 小学校3年生「水飲み場」	
	(5) 小学校3年生「みんなうれしく」	
	(6) 小学校4年生「クラスのきまり」	
	(7) 小学校5年生「まいごのカナリア号」①	
	(8) 小学校5年生「まいごのカナリア号」②	
	(9) 小学校6年生「図書館員のなやみ」	
	(10) 中学校1年生「選手に選ばれて」	
	(11) 中学校1年生「一粒のアメ」	
V	成果と課題	40

道德科の評価の在り方と考察 ～「道德評価シート」を活用した見取の工夫～

提案者 栃教協教研推進委員会 教員部

宇都宮市立富屋小学校教諭 荻原 理江

I 研究主題設定の理由

我が国の道德教育は、道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものとされてきた。平成26年2月には、文部科学大臣より、道德教育の充実を図る観点から、教育課程における道德教育の位置付けや道德教育の目標、内容、指導方法、評価について検討するよう、中央教育審議会に対して諮問がなされ、同年3月から道德教育専門部会を設置し、同年10月に「道德に係る教育課程の改善等について」答申がなされた。この答申を踏まえ、平成27年3月27日に学校教育法施行規則を改正し、「道德」を「特別の教科である道德」とするとともに、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部改正が告示された。小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から「道德の時間」を「特別の教科 道德」に変更することとなっており、いよいよ教科化が間近に迫ってきている。

栃教協教研推進委員会教員部では、長年継続して、「心の教育」及び「道德教育」の研究を行ってきた。平成27年度は、全国の小中学校に配布されている「私たちの道德」の活用実践を通して、学校と家庭とが連携を図ることにより、児童生徒が道德的価値について自ら考え、行動できる力を身に付けることを目指した取組について研究した。また、平成28年度は、豊かな心や社会性をはぐくむ道德の時間の充実をテーマに、いじめ未然防止の取組について研究を行った。

本年度は、道德の評価について研究を行う。いよいよ1年後に迫る道德の教科化に向けて、具体的にどのように評価をしていけばよいのかが不透明で、現場からは不安の声が上がっている。そこで本部会では、評価の手段として、評価シートによる見取の方法を中心に考察することにした。それぞれの学校や学年で部員が実践した道德の授業において、ワークシートの工夫や、児童生徒の観察などを評価シートにより総括し、評価の在り方について提案していく。

Ⅱ 研究主題について

(1) 道徳科の評価について

小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から道徳が特別の教科とされ、評価をしていくことになる。しかし、具体的にどのように評価をしていけばよいのか不透明で、不安の声が上がっている。

改定後の学習指導要領において、道徳教育の評価について児童生徒の「学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする。」と定められている。学習状況や指導を通じて表れる児童生徒の道徳性に係る成長の様子や過程を、指導のねらいや内容に即して把握し、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度につながる指導を目指すために、我々教員は「道徳科の評価の在り方」について考えていく必要がある。

(2) 評価シートの活用について

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議の報告（「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について」（平成28年7月22日）では「一定のまとまりの中で、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取ることが求められること」、「個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること」とある。

本部会では、児童生徒の道徳性に係る成長の様子をより長期的に捉えるために、一つ一つの授業の見取を大切にすることが必要と考えた。そこで、導入で価値についての発問を投げかけ、終末に同じ発問のワークシートで振り返りをさせることで、他者の考えや議論に触れて自律的に思考する中で、価値についての一人一人の理解の変容を見取ろうとした。

しかし実践した結果、導入の発問で一人一人の考えを見取ことは難しく、選択式のみワークシートでは児童生徒の考えを十分に把握することは困難であると分かった。

それらを踏まえて議論を重ねた結果、学習指導要領と専門家会議の報告から見取の視点を設定し、様々な資料を参考にして評価シートを作成した。これを活用することによって、長期間にわたる児童生徒の変容を教師が把握できるように研究を行うこととする。

Ⅲ 研究の仮説

- 児童生徒の発言や記述などから見取ったことを評価シートに記録・蓄積することによって、長期間にわたる児童の変容や道徳的価値の理解の深まりを捉えることができるであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 評価シートを使った見取

(1) 作成までの経緯

「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」（平成28年7月22日）の資料を基に、来年度からの教科化に向け、道徳の授業で指導したことに対する評価の見取をどのようにしていけばよいのかを話し合った。

道徳の時間の達成状況は価値の自覚の深まりや道徳的実践力の意欲の高まりから評価することになるので、1時間の授業だけでは明確な変容を見取ることが難しい。そこで、わずかな変容や成長を長期的に見取ることができるよう評価方法を工夫していかなければならないと考えた。

また、評価に当たっては、個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とし、一つ一つの授業の見取を大切にしていかなければならない。その大きくくりなまとまりとするために、学期ごとの個人の道徳的価値の変容を見取ることができるような評価シートの作成が必要であると考えた。当初考案した事前と事後の選択式アンケートにより1時間内での自己の変容を見取する方法は、この評価シートを使って見取の際に活用するものとした。

- ①意欲的に考えることができた
- ②登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている
- ③道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている
- ④友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている
- ⑤複数の道徳的価値の理解をもとに、多面的・多角的に考えようとしている
- ⑥道徳的な正しい判断をしている
- ⑦これからの自分の生き方について考える姿が見られる
- ⑧自分の考えを見つめなおし価値の理解を深めようとする姿勢が見られる

(2) 評価シートについて

名簿に見取の視点を記入し、児童生徒の授業中の発言や様子、ワークシートの記述、授業後の言動などをチェックしていくシートである。視点については、本部会で検討したが、話合いの結果、「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」の資料に示されていることを参考に、下記のような視点で見取ることになった。

毎時間この評価シートを使った見取を行い、エクセルのシートに入力することによって、全体の評価と個人の評価が両方見られるようにした。

なお、評価シートは、個人の1年間の変容が見られる個票と、学級全体の毎時間の様子を記入する見取シートがある。

資料1 見取シート（第1時 言葉のまほう）

それぞれの授業での見取を記録するためのシート。1時間ごとに1枚となる。

No	氏 名	性別	きたの意欲的に考えることがで	えての登場人物の理解しよきと換	考えようとしてとらえ	運的価値を表現することの	と友達の見意を聞きよきと換	にも数に「道徳的価値の理的解	で「道徳的価値の理的解	るに「道徳的価値の理的解	すに「道徳的価値の理的解	の自分を見つめようとお	備考
1	栃木 太郎	男	○				○						大部分であいさつをしている
2		男											欠席
3		男	○	○			○						礼儀正しくしたい
4		男	○	○			○		○	○			あいさつをがんばろう

個票の第1時
に出力される。

見取シート（第4時 3年2組だって）

No	氏 名	性別	きたの意欲的に考えることがで	えての登場人物の理解しよきと換	考えようとしてとらえ	運的価値を表現することの	と友達の見意を聞きよきと換	にも数に「道徳的価値の理的解	で「道徳的価値の理的解	るに「道徳的価値の理的解	すに「道徳的価値の理的解	の自分を見つめようとお	備考
1	栃木 太郎	男		○									
2		男											欠席
3		男	○	○			○						自分のクラスはよいクラス
4		男	○	○	○			○	○				良いクラスにしていきたい

個票の第4時
に出力される。

見取シート（第9時 水飲み場）

No	氏 名	性別	きたの意欲的に考えることがで	えての登場人物の理解しよきと換	考えようとしてとらえ	運的価値を表現することの	と友達の見意を聞きよきと換	にも数に「道徳的価値の理的解	で「道徳的価値の理的解	るに「道徳的価値の理的解	すに「道徳的価値の理的解	の自分を見つめようとお	備考
1	栃木 太郎	男	○										迷っている
2		男	○	○						○			少し迷っているけれどみんなのこと考えている
3		男	○	○			○		○	○	○		みんなのためにがんばりたい
4		男	○	○			○	○	○	○	○		みんなのためにがんばりたい

個票の第9時
に出力される。

資料2 個票（出席番号1番の児童の場合）

1年間の児童生徒の様子が一覧表となって出力される。

これにより、年間で児童生徒がどのように変容したのかが確認しやすくなる。

前ページ「資料1 見取シート」とリンクしているのでこちらに入力する必要はない。

		3年道徳評価シート						番号	1	氏名		橋本 太郎			
時 数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
指 導 内 容		2-(1)	2-(2)	1-(1)	4-(4)	2-(3)	4-(1)	1-(4)	3-(2)	4-(1)	4-(6)	1-(2)	4-(5)	2-(2)	2-(3)
主 題 名		札幌正しい振る舞い	困っている人に	自分の考えで	クラスの良いところ	本当の友達	決まりを守って	隠さず正直に	自然を守る	みんなで使うもの	受け継がれてきた食文化	悔しさをバネに	伝統を受け継ぐ	できなかった最初	友を思う心
資 料 名		言葉のまほう	コメント君を立派な指導士に	ロバを売りに行く狼子	3年と娘だつて	友達や	自転車置き場があるのに	窓ガラスと風	はじめての馬車道	水鏡みづ	和食の文化	二重丸びちゃんピオン	祭り太鼓	おじいさんの顔	泣いた赤鬼
1	①意識的に考えることができた	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
2	②登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている				○	○									
3	③道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている														
4	④友達の見解を聞き、自分と違う見解を理解しようとしている	○	○	○											
5	⑤複数の道徳的価値の理解をもとに、多面的・多角的に考えようとしている														
6	⑥道徳的な正しい判断をしている														
7	⑦これからの自分の生き方について考える姿が見られる														
8	⑧自分の考えを見つめなおし価値の理解を深めようとする姿勢が見られる			○											
9		大きな声であいさつをしている								迷っている	迷っている				
10	新														

見取シートの第1時に記入したものがここに出力される。

第4時

第9時

(3) 見取の各視点について

①意欲的に考えることができた

児童生徒の発言や授業に対する意欲など、様々な場面で見取る。できていれば○。

②登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている

授業中、登場人物を自分に置き換えて考えるような発問をして、具体的に自分だったらどうするかということや、気持ちを考えているかどうかを見取る。登場人物を自分に置き換えて考えていれば○。

③道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている

その時間その時間で道徳的価値を押さえ、実現することの難しさを理解しながら、実現しようとする意欲が見られるかどうかを見取る。できていれば○。

④友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている

友達の発言をしっかりと聞き、友達の考えと自分の考えの違いを認めているかどうかを見取る。友達と違う意見でも、相手の考えも認めていれば○。

⑤複数の道徳的価値の理解をもとに、多面的・多角的に考えようとしている

道徳的価値を考えるときに、いろいろな視点から考えているかどうかを見取る。いろいろな視点から考えていれば○。

⑥道徳的な正しい判断をしている

ワークシートや発言から、道徳的に正しい判断をしているかどうかを見取る。正しい判断をしていれば○。

⑦これからの自分の生き方について考える姿が見られる

今日の授業を通して、これから自分はどうしていきたいか、どういう人になりたいか、どういう人生を送りたいか等を考えているかどうかを見取る。しっかりと考えていれば○。

⑧自分の考えを見つめなおし価値の理解を深めようとする姿勢が見られる

授業中、自分の中の価値を見つめ直し、よりよい価値へと変容が見られたかどうかを見取る。価値の理解を深めようとしていれば○。

備考欄には、その授業での教師の気付きや、児童生徒の発言をメモ書きしておく。

2 各学校での実践例

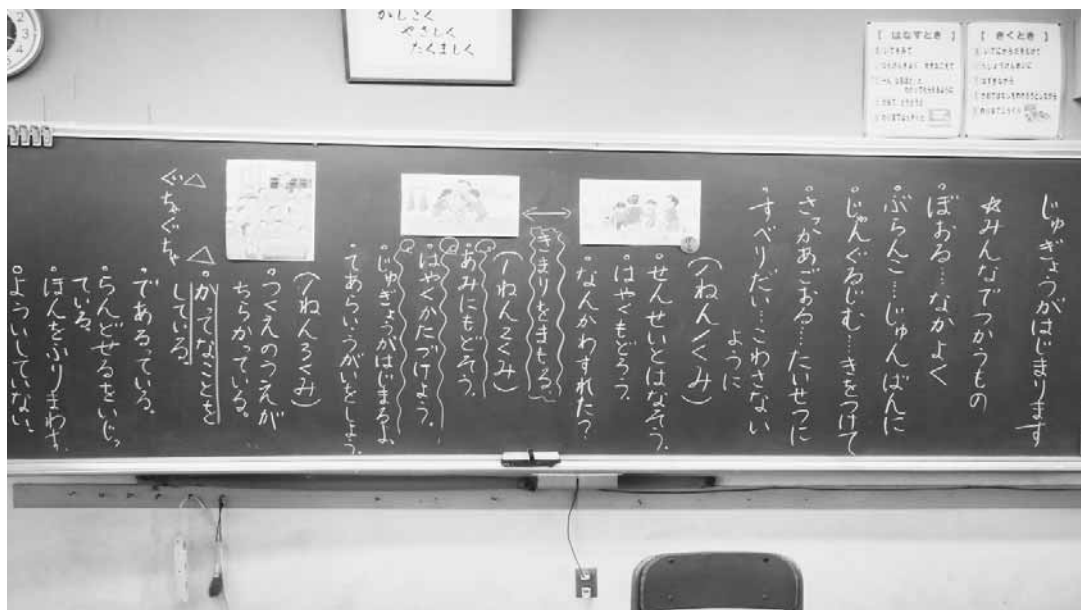
(1) 小学校1年生「じゅぎょうがはじまります」

①展 開

資 料 名	じゅぎょうがはじまります	実施日	5月23日
内容項目	4-(1) 規則尊重・公德心 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。		
ね ら い	時間を守り、みんなが使う物を大切にしよう。		

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	見取 視点
価値の方向付け	1 みんなで使う物について考える。	5	○学校にある物で、みんなで使う物にはどんな物があり、どんなふうに使っていますか。	
価値への追求把握	2 「じゅぎょうがはじまります」の絵を見ながら話し合う。	5	○この絵の子供たちは、どんなことを話しながら教室に戻っているでしょう。 ・楽しかったな。教室に戻ろう。 ・だれか片付けてくれないかな。 ・片付けは面倒だ。 ◎絵を見比べながら、考えさせる。 ◎「どうして片付けないのかな。」というところまで考えさせるような補助発問をする。	④
		5	○この絵の子供たちは、どんなことを話しながらボールを片付けているでしょう。 ・使ったから、片付けよう。 ・面倒だけど、片付けないと。	④
			◎「面倒でも、なぜ片付けるのか。」という補助発問をして、公共の物は大切に使用しなければいけないことに気付かせる。	②
		5	○この絵の中には、どんな子がいるでしょう。 ・授業の準備をしている子。 ・ランドセルを出して、物を探している子。	④
		10	どうして時間を守らないといけないのでしょうか。 ・みんなに迷惑がかかるから。 ・授業の時間が減るから。	③⑥
価値の内面的自覚	3 これまでの生活を振り返る。	10	○これまでに、みんなで使う物を大切にできたことや時間を守ったことはありますか。 ・幼稚園のとき、みんなの本を整とんした。 ・休み時間の終わりのチャイムを守っている。	③⑥ ⑧
終 末	4 教師の説話を聞く。	5	◎みんなで使う物を大切にしたときの気持ちを聞くことで、道徳的価値に気付かせる。 ◎みんなで使う物を大切にしている児童を取り上げ、褒めることで、実践意欲につなげたい。	

②板書・発問・ワークシート等の工夫



工夫①

三枚の絵を見せて、「同じ学校の一組、二組、三組だけれど、クラスによって、片付け方が違っていいね。」と話し、「みんなはどんなクラスになりましたかな？」と発問した。その発問により、しっかりと片付けができるクラスになりたいという意欲付けができた。

工夫②

授業中に席を出歩いている子や勝手な行動をしている子の絵を見せると、「授業中に勝手なことをする、みんなに迷惑がかかるからやめてほしい。」と発表した児童がいた。その発表を聞いて、ねらいとする価値が良い方に変った児童が多かった。

「価値の方向付けで」学校にある、みんなで使う物をどのように使っているかを全員に発表させ、「価値の内面的自覚」で、今日の授業を通して、これからみんなで使っていくかを発表させることにより、1時間の児童の心の変容を見取ることができるよう工夫した。

じゆぎようがはじまります

★ いちりんしやで、あそんでいてもだいが、やすみじかんがわつたら、いちりんしやを、かたづけなくて、きようしつへもどってしまいました。あなたはどうしますか？そうするものに○を、そうしないものに×を、わからないものに△をつけましょう。

① (×) なにもしない。

② (○) 「かたづけたほうが いいよ。」と、こえをかける。

③ (×) 「だめだよ。」とおこる。

④ (○) 「いっしょに、かたづけよう。」とこえをかける。

★ このべんきようを、とおして、じかんについて、どうおもいますか？

① (○) じゆぎようのはじまるじかんに、せきについています。

② (×) じかんなんて、まもらなくていい。

③ (○) せんせいや、ともだちと、やくそくしたじかんは、かならずまもる。

④ (×) じかんは、まもりたが、わすれてしまふ。

時間を守ることの大切さについてしっかりと指導したかったので、「価値の内面的自覚」のところで、これから時間をどのように使っていきたいかの発問をした。全員が「先生や友達と約束した時間は必ず守る。」と答えていた。道徳の時間以外でも、折にふれて時間を守ることの大切さについて話していきたい。

③評価シート

No.	氏名	性別	①意欲的に考えることができた	②登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている	③道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている	④友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている	⑤複数の道徳的価値の理解をもとに、多面的・多角的に考えようとしている	⑥道徳的な正しい判断をしている	⑦これからの自分の生き方について考える姿が見られる	⑧自分の考えを見つめなおし価値の理解を深めようとする姿勢が見られる	発言から
1		男									たくさん発表していた
2		女	○	○		○		○		○	みんなのためにがんばっていききたい
3		男	○								
4		男	○			○					たくさん発表していた
5		女	○	○	○	○		○		○	みんなのためにがんばっていききたい
6		男	○			○					友達の話をうなずきながら聞いていた
7		女	○			○					たくさん発表していた
8		男	○			○		○			みんなのものを大切に使いたい
9		男	○	○		○					そうだよね
10		男	○								
11		女	○		○	○					忘れそうだけれどがんばるよ
集 計			11	3	2	9		3		2	
方 法				学習活動2 発表	学習活動2・3 発表	学習活動2 発表		学習活動2・3 発表		学習活動3 発表	

④考 察

- 「どうして時間を守らないといけないのか？」の発問に、「先生に怒られてしまうから。」という意見があった。補助発問をしたが、「先生に怒られてしまうから。」と答えていた児童が、「価値の内面的自覚」で今日の授業を通して、「これから時間をどのように使っていきたいか？」の発問に、「みんなのために、決められた時間は守っていきたい。」と答えていた。そのような価値の変容を評価していくと良いのではないかなと思う。
- 1年生なので、ワークシートは選択式にし、記入した後で、どうしてそのように記入したのかを話し合った。その話合いで、「③道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている」「⑥道徳的な正しい判断をしている」「⑧自分の考えを見つめ直し、価値の理解を深めようとする姿勢が見られる」の視点を見取ることができた。
- 評価シートを活用することで、どの学習場面でどの視点を見取るのかをあらかじめ考えておくことができて良かった。

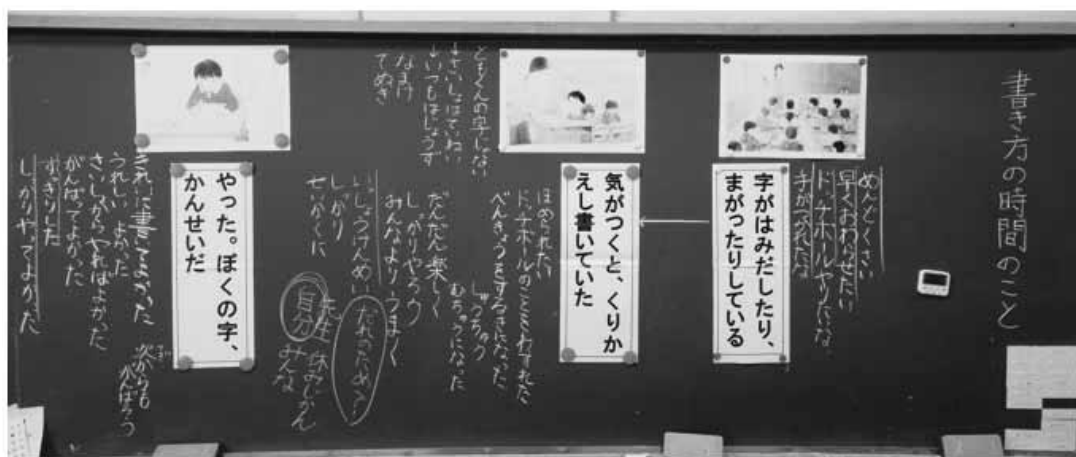
(2) 小学校2年生「書き方の時間のこと」

①展 開

資 料 名	書き方の時間のこと	実施日	6月22日
内容項目	1-(2) 勤勉・努力		
ね ら い	勉強や仕事に一生懸命に取り組むことの大切さと、その作業をやり終えた後の達成感と喜びに気づき、しっかりと行うことのできる自分を好きになる。		

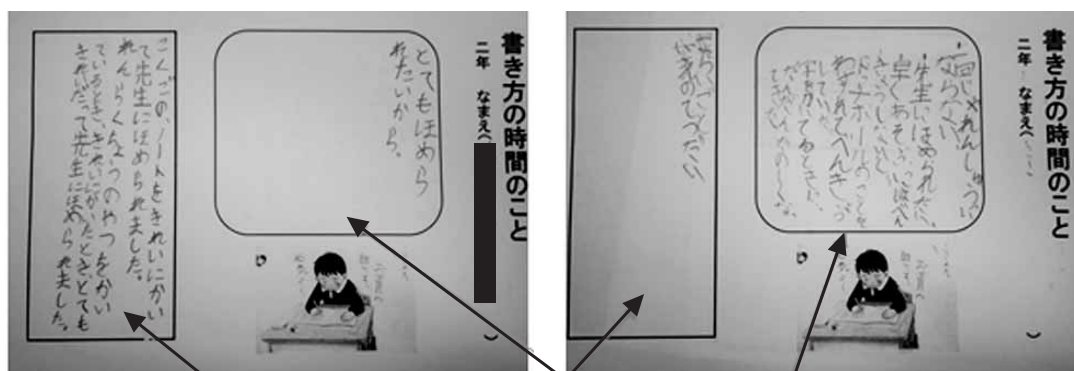
指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	見取 視点
価値の方向付け	1 頑張っていることについて話し合う。	5	○できるようになったことを話し合う。	
価値への追求把握	2 資料「書き方の時間のこと」をもとに話し合う。	25	○字がはみ出したりまがっていたりするの、どのような気持ちがあったからでしょう。 ・手がつかれた。 ・ドッジボールやりたいな。 ・早く終わらせたいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">くりかえし書いたのはどうしてでしょう。</div> ・なっとくできる字じゃないから。 ・もっときれいに書きたくなった。	②
	3 教師の話を聞く。	5	○「いい字ですねえ。」とほめられたとき、どんなことを考えたでしょう。 ・ほめられてうれしい。 ・つかれも、ドッジボールのことも忘れた。 ・一生懸命書いて良かった。	②
価値の内面的自覚 終 末	4 自分の生活を振り返る。	10	○勉強や自分の仕事などを努力している人の話をする。 ◎教師の話を内面化の前にすることで、具体的に頑張っている姿とはどういったものなのかを想像しやすくする。	
			○一生懸命にできたことを振り返りましょう。	⑧

②板書・発問・ワークシート等の工夫



工夫①
「ぼく」の気持ちに共感させるために、似た経験がないかを思い起こさせた。

工夫②
価値の内面化を図る前に、教師の話として、「学級で一生懸命に勉強や仕事に取り組む児童」のことを伝えた。
書くことが苦手な児童も書く内容が分かりやすくなったか。



後段では、自分の生活の振り返りをさせた。(「一生懸命頑張っていることはありますか。」)

登場人物の行動の変容が最も大きかったと思われる部分を、中心発問とした。

③評価シート

No.	氏名	性別	①意欲的に考えることができた	②登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている	③道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている	④友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている	⑤複数の道徳的価値の理解をもとに、多面的・多角的に考えようとしている	⑥道徳的な正しい判断をしている	⑦これからの自分の生き方について考える姿が見られる	⑧自分の考えを見つめなおし価値の理解を深めようとする姿勢が見られる	
1		女									
2		男		○						○	
3		女	○	○						○	
4		女									
5		男									
6		男									
7		女	○	○							
8		男									
9		男	○	○							
10		女	○							○	
11		男	○	○						○	
12		男	○							○	
13		女								○	
14		女	○	○							
15		男	○								
27		男									
集計			15	10						9	
			観察	シワーク						シワーク	

④考 察

- 一生懸命やることはなぜ大切なのかを、対話しながら考えさせることができた。
- 発問に対して出てほしいキーワードが児童から出てきたので、流れはスムーズにできた。
- 評価の観点③を見取るためには「これまでの自分の振り返り（過去）」を考えさせ、観点⑦を見取るためには「これからどうしていきたいか（未来）」等を考えさせる必要がある。道徳の授業で何を評価したいのかを十分考えて発問しないと、評価シートで蓄積したデータが観点③か⑦に偏る恐れがあると感じた。
- 「これまでの自分は○○だったが、今日の授業で△△ということを学んだので、これからは□□したい。」などの書き方ができれば、ワークシートで観点③⑦⑧を一緒に見取ることができる。
- 児童の道徳的価値が高まったのかどうか、今回の授業からは判断することができないので、ワークシートや授業の記録の残し方を工夫する必要がある。

(3) 小学校2年生「ノートのひこうき」

①展 開

資 料 名	ノートのひこうき	実施日	5月29日
内容項目	節度・節制、自立		
ね ら い	限りある資源を大切に使うことを心掛けるとともに、無駄遣いをせずに、学用品などを最後まで愛着をもって使おうとする心情を育てる。		

過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫
価値の方向付け	1 写真をもとに、日頃のものの使い方について考える。	5	○新しいものを使い始める時の気持ちは、どんな気持ちですか。
価値への追求把握	2 資料「ノートのひこうき」を読んで話し合う。	30	○ゆきお君に字を丁寧に書いてもらったノートの気持ちを考えましょう。 ○ゆきお君がどうしてノートを破ったのか、考えましょう。
	3 ノートのひこうきの立場に立つ。		踏みつけられ、どろんこになって捨てられたノートのひこうきの気持ちを考えましょう。
価値の内面的自覚	4 自分の身の回りのものを見つめなおし、ものを大切にしているかどうか話し合う。	7	○ものを大切に使い続けるために必要なのは、どのような気持ちですか。
終 末	5 教師の説話を聞く。	3	◎ものを大切にした時の話、大切にしていなかった時の話をする。

②板書・発問・ワークシート等の工夫

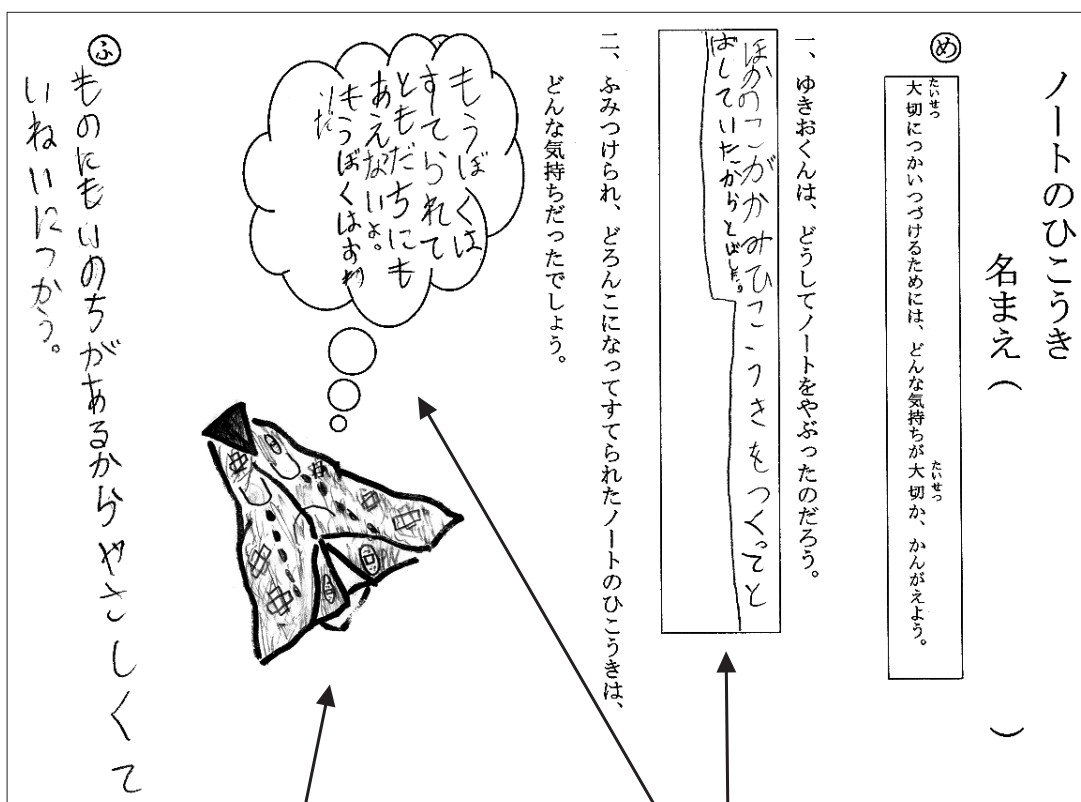


工夫①

ノートの立場及びゆきお君の立場、それぞれに立って考えることができるようにした。導入の発問で、新たにものを買ってもらった時に大切に使うという気持ちがある、と多くの児童が考えたが、資料を読んだ後の二つ目の発問では、ノートを破いてしまったゆきお君の気持ちもわかるという子供もいて、様々な立場で考えさせることができた。

工夫②

今回の授業では、紙芝居形式で資料を読み、児童に聞いてもらった。話し合い活動では、児童が互いに資料の展開について確認しながら、人とノートの両方の立場になって考えることができた。



ワークシートの「二」が中心発問であり、ノートのひこうきには顔を描かせ、気持ちを考えさせやすくした。

「人」と「もの」の両方の考えが並び、比較がしやすいようにした。

③評価シート

[illegible]

（言の
メ、
板書）

④考察

- 普段考えることの少ない、「もの」側の立場になって考える活動を通して、日頃のものの使い方について改めて考える時間にする事ができた。
- 自席の周りに自分のものが落ちていてもあまり気にしていなかった児童が、友達の協力もあって少しずつものを大切にするようになってきた。
- 書くことが苦手な児童の場合、ワークシートの記述のみの評価は難しいと考える。発言を評価シートに記入しておき、評価に活用することが必要である。

(4) 小学校3年生「水飲み場」

①展 開

資 料 名	水飲み場	実施日	5月30日
内容項目	4－(1) 規則の尊重・公德心		
ね ら い	みんなで使うところを、大切に使いことうとする心情を養う。		

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	見取 視点
価値の方向付け	1 校内のみんな で使う場所 について話し 合う。	3	◎みんなが使う場所を思い出し、できるだけ ワークシートに書くようにさせる。	
価値への 追求把握	2 資料「水飲 み場」をもと に話し合う。	8 21	○水がつまっているのを見たひろ子さんは、 どう思ったでしょう。 ・きたないな。 ・だれがよごしたのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ひろ子さんは、どんな気持ちでごみを取 り除いたのでしょうか。</div>	②
		5	○よしおくんを見てにっこりしたひろ子さん は、どんな気持ちだったでしょう。 ・きれいになって良かった。 ・これから気をつけてくれるといいな。	
価値の内 面的自覚	3 これからの 自分を考える。	5	○これから、みんなで使うところをどんなふ うに使っていきたいですか。	⑥
終 末	4 教師の話を 聞く。	3	◎実際に自分たちが使う水飲み場が詰まっ ていて掃除をした話や、トイレのスリッパが ばらばらだったのを進んでそろえていた児 童の話をして実践意欲につなげるようにし た。	

※視点①については、どの活動でも見取るようにする。

②板書・発問・ワークシート等の工夫



工夫①

最初は「いやだ」という気持ちはないというのが全員の意見だったが、後の場面で「いやだ」という意見が出たので、最初の場面では、そういう気持ちはなかったのか聞いてみた。「進んでやった」のか、「いやだけれどやった」のか、価値について多面的・多角的に考えさせることができた。

工夫②

意見の違いに気付かせようと、「よしおのため」か「みんなのため」なのか聞いてみた。それぞれに理由を述べ、友達と自分の意見の違いを考えることができた。

表面

3 部 (1)

水のみ場

みんながつかう場所には、どんな所がありますか？

- ひろふとトイレ
- 学校
- 公園
- スーパーマーケット
- 学校の中
- トイレ

みんながつかう場所をきれいにしていますか？

はいとこどろ

いいえ

ひろふさんは、どんな気持ちでこみをとりのぞいたのでしょうか？

自分たちが友だちのためにゴミをとってあげよう

さっしやとれればみんはは自分のためにゴミをとってあげよう

裏面

3

☆これから、どのようなことをとりたいですか？自分の考えにちがいのものをつけてみましょう。

① () 「自分がとったのではないから、かんけいなし。そのままにしておこう。」

② () 「自分がとったのではないけれど、後につかう人のために、きれいにしておこう。」

③ () 「自分がとったのではないけれど、よこさないようにつかおう。」

④ () 「自分がとったのではないけれど、でも後につかう人のためにきれいにしよう。」

中心発問となるところで、登場人物の気持ちを書かせるようにした。

前段で、今の自分について考える設問を入れる。そして、後段で、これからの自分について考える設問を入れている。比較することで1時間での変容を見取ることができる。また、道徳的判断について見取ることができる。

③評価シート

No.	氏名	性別	①意欲的に考えることができた	②登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている	③道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている	④友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている	⑤複数の道徳的価値の理解をもとに、多面的・多角的に考えようとしている	⑥道徳的な正しい判断をしている	⑦これからの自分の生き方について考える姿が見られる	⑧自分の考えを見つめなおし価値の理解を深めようとする姿勢が見られる	
1		女	○				○	○			ひろ子さんは迷いなく行った
2		女	○	○				○		○	いやだけどやる。
3		男	○					○			
4		女		○							
5		男	○					○			
6		男	○			○		○			きたない、やだな。 みんなのために。
7		女	○				○	○	○		迷いなく。スリッパそろえる。
8		女	○	○				○		○	いやな気持ち。でもやる。
9		女	○					○	○		スリッパそろえる。
10		男						○			
11		女	○			○		○			クラスのため←よしおのため
集 計			9	3		2	2	10	2	2	
			観 察	シ ワ ー ク		観 察	発 言	シ ワ ー ク	事 後 の 行 動	発 言	

④考 察

- 実際に前日にトイレのスリッパが乱れていたこともあり、自分たちに身近な話として考えることができた。
- 水が詰まっているのを見たときのひろ子さんの気持ちを考えたときには、ひろ子さんの「いやだな」と思う気持ちが出て来なかったが、次の場面で「いやだな」という意見が出たので、先の場面で、ひろ子さんはいやだったのか、それともいやな気持ちはないのか聞いてみた。たくさんの児童が「やっぱりいやだったと思う。」と意見を変える中、2名の児童は、意見を変えなかった。その場面で、視点⑤の見取を行うことができた。発問の工夫で、見取の場面を作ることができたと思う。
- ワークシートを工夫することで、「登場人物を自分に置き換えて理解しようとしているか」「道徳的な正しい判断をしているか」などいくつかの視点について見取ることができると思う。
- 評価シートを活用することで、この場面で、この評価をしようという見通しをもつことができた。授業の準備をする中で、「この場面でこの見取を」とだいたい目安をもつことが大切だと思った。

(5) 小学校3年生「みんなうれしく」

①展 開

資 料 名	みんなうれしく	実施日 6月1日
内容項目	4-(1) 公德心、規則の尊重	
ね ら い	おばあさんと郵便屋さんの話を聞いて嬉しくなくなった「ぼく」の気持ちを考えることを通して、社会のきまりを守ることの大切さに気付かせ、きまりを守って気持ちよく正しく生活しようとする心情を養う。	

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	見取 視点
価値の方向付け	1 自分たちの周りにある約束事やきまりについて話し合う。	5	○みんなのまわりには、どのような守るべき約束事やきまりがありますか。 ◎身の回りには様々なきまりがあることをおさえ、ねらいとする価値への方向付けを図る。	
価値への追求把握	2 資料「みんなうれしく」を読んで話し合う。	8	○通りの家の庭に咲いている花をぬいている「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょう。 ・少しくらいいいだろう。外に出ている花はいいだろう。	②④
		4	○けいこちゃんの喜ぶ姿を見て、「ぼく」はどう思ったでしょう。 ・喜んでくれて良かった。 ◎罪の意識をもっていないことをおさえる。	②
		15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">おばあさんとゆうびん屋さんの話を聞いて、嬉しくなくなった「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょう。</div> ・ぼくは嬉しかったけど、2人は悲しんだ。 ・してはいけないことだった。 ◎小グループ内で話し合わせたり全体で練り上げたりしながら、約束やきまりの意義、その役割について考えられるようにする。	②③
		5	○きまりを守ることは、なぜ大切なのでしょうか。 ・みんなが気持ち良くすごせる。 ◎きまりを守ることの意義について深く考えさせ、価値の一般化を図る。	⑥
価値の内面的自覚	3 今までの自分を振り返る。	6	○「きまりを守ること」について、今までの自分はどうでしたか。 ◎ワークシートに記入させ、一人一人が深く振り返りできるようにする。	⑥⑦⑧
終 末	4 教師の説話を聞く。	2	◎きまりを守ることで心がさわやかになることを話し、意欲を高めたい。	

②板書・発問・ワークシート等の工夫

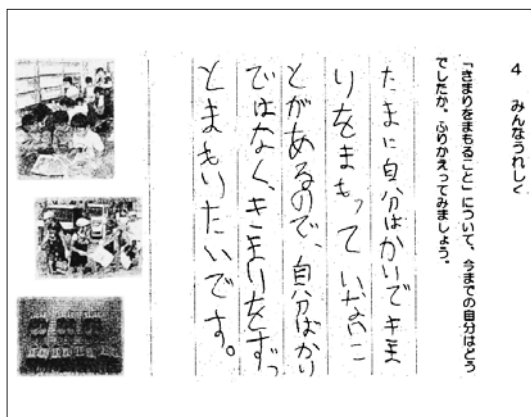


毎時間、「第○回道徳」と板書することで、三十五時間の積み重ねを感じられるようにした。

自分本位だった「ぼく」が、相手の気持ちを考えることできまりの大切さに気付いたことを全体で深めることで、みんなが気持ち良く過ごすためにきまりがあることをとらえることができた。そして、資料名の「みんなうれしく」につなげた。

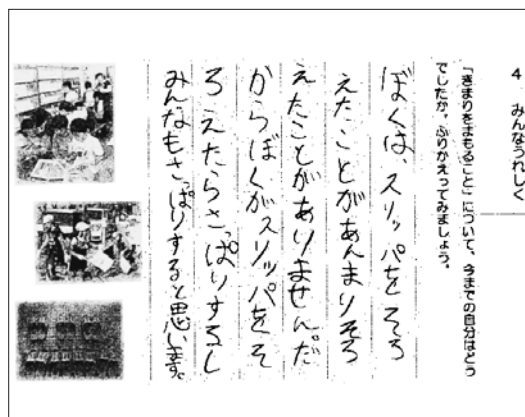
価値への追及・把握では、三、四人の小グループで話し合い活動を取り入れた。友達の考えを聞き合うことで、多様な考えに触れられるようにした。

児童A



自分ができなかったことを振り返り、これからの行動について考えていることを見取ることができた。

児童B



自分の行動を振り返り、道徳的価値の良さを正しく理解し実践への意欲が高まったことを見取ることができた。

③評価シート

No.	氏名	性別	①意欲的に考えることができた	②登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている	③道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている	④友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている	⑤複数の道徳的価値の理解をもとに、多面的・多角的に考えようとしている	⑥道徳的な正しい判断をしている	⑦これからの自分の生き方について考える姿が見られる	⑧自分の考えを見つめなおし価値の理解を深めようとする姿勢が見られる	
1		男	○	○		○		○			一貫した思考
2		女		○							
3		男	○			○		○		○	今まではこう思っていたが
4		男	○	○		○			○		これからは相手のことも
5		男	○		○						恥ずかしいけど謝る
6		男						○			
7		女						○			
8		男		○				○			スリッパをそろえる
9		女	○	○							
10		女				○					
20		男							○		
集計			9	8	2	6		6	3	1	
			観 察	発 言	発 言	観 察		発 言	ワ ー ク シ ー ト	ワ ー ク シ ー ト	

④考 察

- 話し合い活動を取り入れることで、「意欲的に考えることができる」「友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている」を見取ることができた。
- ワークシートを価値の内面的自覚で活用することで、「道徳的な正しい判断をしているか」「これからの自分の生き方について考えているか」を見取ることができるとともに、一人一人の思いをとらえることができた。
- 今回の授業では、評価できない観点もあった。その観点をどの授業で見取るか、あらかじめ計画を立てておく必要があると感じた。

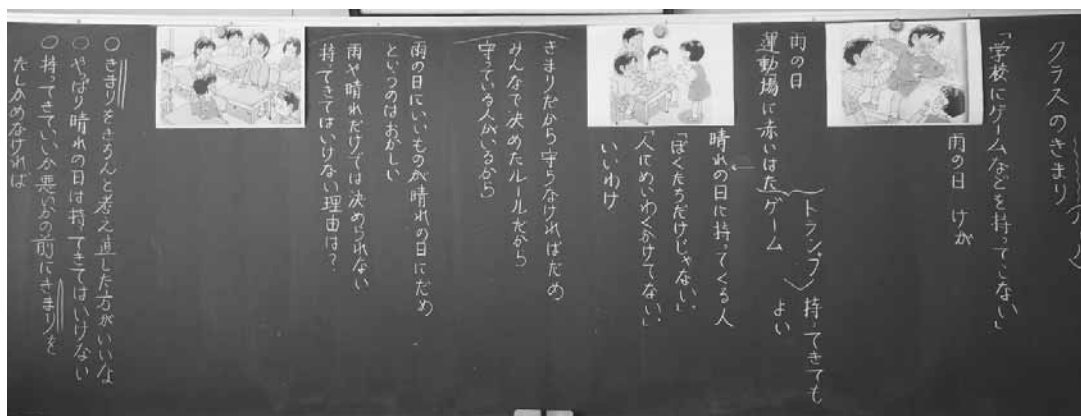
(6) 小学校4年生「クラスのきまり」

①展 開

資 料 名	クラスのきまり	実施日	5月30日
内容項目	4-(1) 規則の尊重・公德心		
ね ら い	きまりの大切なわけを考えて、進んでこれを守って秩序ある生活をしようとする態度を養う。		

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	見取 視点
価値の方向付け	1 自分の生活を振り返る。	5	○きまりを守って良かったと思ったこと、守らなくて失敗したことはありますか。	
価値への追求把握	2 資料「クラスのきまり」を読んで話し合う。	30	○晴れの日でも、トランプやゲームを持ってくる人が増えてきたことをどう思いますか。 ◎建前的な「良くない」という意見だけに終わらせないように揺さぶりをかける。 ○学級会でのみんなの発言について、どの考えに賛成しますか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">かずやの発言でみんなが考え込んでしまったのはなぜでしょうか。</div> ◎きまりの本質に立ち返り、これを守って、秩序ある生活をしようとする方向へ導く。	④ ②
価値の内面的自覚	3 自分たちの学級について話し合う。	5	○自分たちの学級には、きまりについてどんな問題がありますか。 ○きまりを守ることについて、これまでの自分はどうでしたか。	⑥
終 末	4 教師の話を聞く。	5		

②板書・発問・ワークシート等の工夫

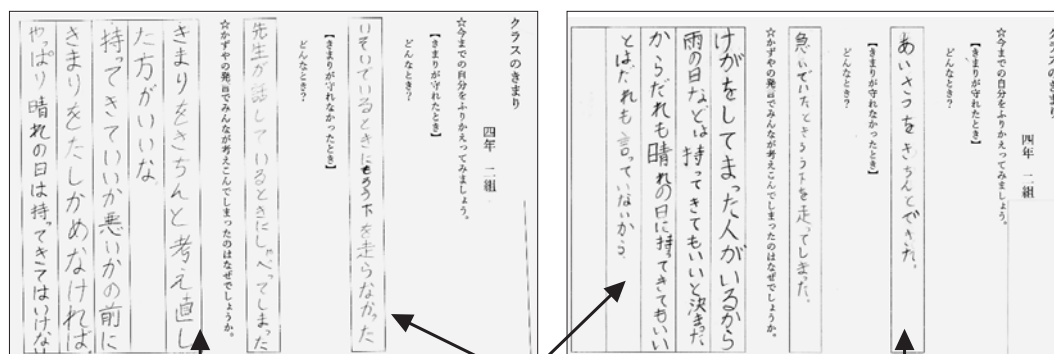


工夫①

「晴れの日にはトランプを持ってくることは良くない」で終わってしまわないように、教師が揺さぶりをかけた。これにより、迷っていた児童や、建前的に良くないと考えている児童の素直な意見を聞くことができた。

工夫②


学級会での発言のどれに賛成するかという投げかけに対して、答えがいくつかに分かれた。お互いの意見を尊重しながら話し合わせることで、きまりを守るということについての話合いに深まりをもたせることができた。



前段で、きまりについて自分のことを振り返らせることで、より身近に本時の内容を感じることができるようになった。

中心発問に対する考えを書かせる場面で、悩んでいる児童が多くみられた。「きまりとはいったいなんのためにあるのか」という本質に立ち返って考えさせた。

③評価シート

No	氏 名	性別	①意欲的に考えることができた	②登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている	③道徳的価値を表現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている	④道徳的価値の価値の対立に考えようとしている	⑤友達の見解を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている	⑥道徳的な正しい判断をしている	⑦これからの自分の生き方について考える姿が見られる	⑧自分の考えを見つめなおす姿勢が深めようとする	
1		男	○					○			
2		男	○	○				○			
3		女	○					○			
4		女						○			
5		男	○					○			
6		男	○					○			発言多く意欲的
7		男	○					○			
8		男	○					○			
9		女	○					○			
10		男		○				○			
11		男	○					○			
12		女	○	○		○		○			友達と意見が異なったがうなずきながら自分の考えとの違いを考えていた
13		女		○				○			
14		女	○					○			
15		女		○				○			
											
37		女						○			
集計			24	7		2		37			
			観察	発言 観察		発言 観察		ワークシート			

④考 察

- 学級会の発言のどれに賛成かを聞いたときに、意見が分かれ、話合いに深まりをもたせることができた。
- 普段の生活で、なかなかきまりを守ることができない児童が良く考え発言していた。
- 意見が分かれたときに、もう少し時間をかけ、お互いの意見を聞きたかったが、その時間を確保することができなかった。

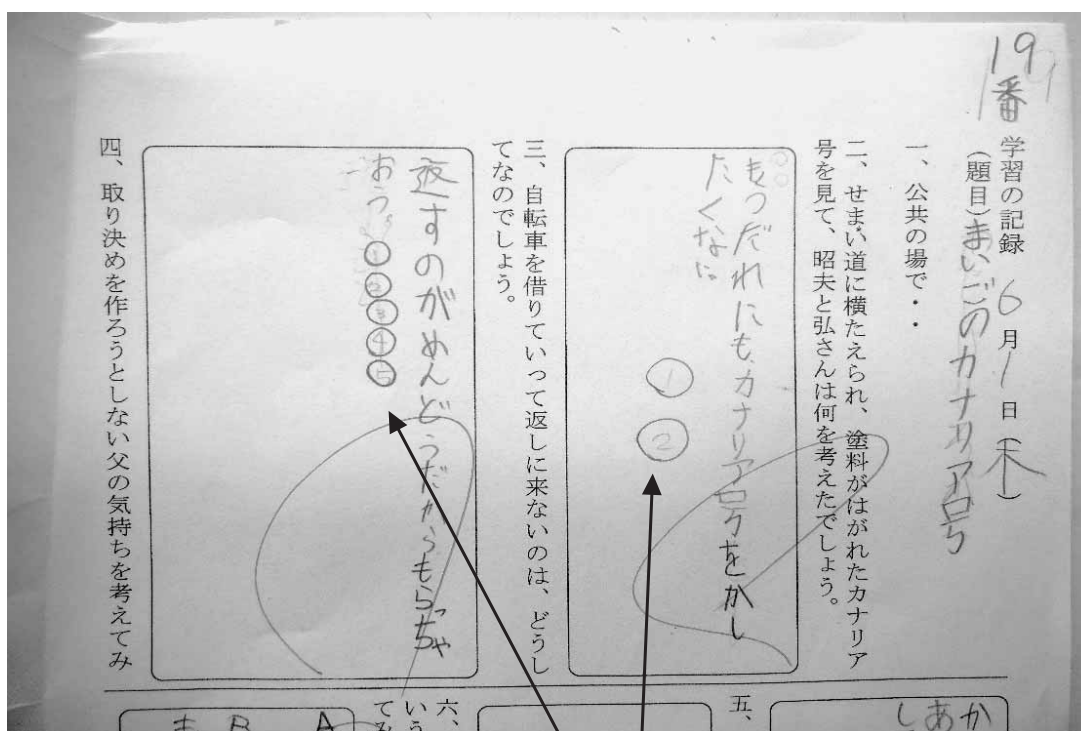
(7) 小学校5年生「まいごのカナリア号」①

①展 開

資 料 名	まいごのカナリア号	実施日	5月30日
内容項目	4-(1) 公德心、規則の尊重、権利・義務		
ね ら い	社会生活をより良くするために公德心を大切に、マナーやエチケットの重要性を感じながら、社会生活の中での自分の権利や義務を考える態度を養う。		

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	見取 視点
価値の方向付け	1 公共の場で迷惑だと思ったり、不快な気分になったりした体験について話し合う。	3	○みんなが使うところで、いやな気分になったことはないですか。	
価値への追求把握	2 資料「まいごのカナリア号」を読んで話し合う。	35	○せまい道に横たえられ、塗料がはがれたカナリア号を見て、昭夫と弘さんは何を考えたでしょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自転車借りて行って返しにこないのは、どうしてなのでしょう。</div> ○取り決めを作ろうとしない父の気持ちを考えてみましょう。 ○新しい看板を見て、昭夫は何を考えたでしょう。	② ②③ ④⑤ ⑥ ⑥
価値の内面的自覚	3 自分たちの生活を振り返らせ、きまりやマナーについて話し合う。	5	○きまりを守る気持ちをもった自分と、守らない自分を想像してみましょう。	⑧
終 末	4 教師の話を聞く。	2		

②板書・発問・ワークシート等の工夫



友達の意見発表を聞きながら、共感したり意見を言いたくなったりした場合は、ワークシートの欄に○を書き加えていくよう促した。

友達の意見を聞いてから自分の意見を書き加えていては、時間内に授業が完結しない。また、これによって、文章力の優劣の目が評価に影響しすぎてしまう懸念を少しでも除けると考えた。

③評価シート

No.	氏名	性別	①意欲的に考えることができた	②登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている	③道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている	④友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている	⑤複数の道徳的価値の理解をもとに、多面的・多角的に考えようとしている	⑥道徳的な正しい判断をしている	⑦これからの自分の生き方について考える姿が見られる	⑧自分の考えを見つめなおし価値の理解を深めようとする姿勢が見られる	
1		男	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					
2		男	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			学習用具以外持参
4		女	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			
3		女	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
30		女	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>			
31		女	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					学習用具以外持参
32		男	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			
33		女	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			バスの中で読書（違反行為）を指導される。5/18
34		男	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
集計			34	32	0	33	0	12	4	0	

④考 察

- 発問と評価項目の関連を明らかにしておいたので、反応を評価しやすかった。
- シートの備考欄に「生活上の指導事項」から関連した事実を記入しておいた。
以前に規則違反をしたことがあるが、この授業内では道徳的に正しい判断ができた児童、あるいはできなかった児童がすぐ分かるため、次の授業で焦点児童とすることができる。
- 児童の表情、つぶやきなど、やはりこの人数を授業中の観察で正確に評価するのは難しい。授業後の休み時間に記憶を記録できることもあるが、毎回は難しい。
- 特に高学年では、文章力や語彙力が十分でない児童を評価するのは難しいと感じた。

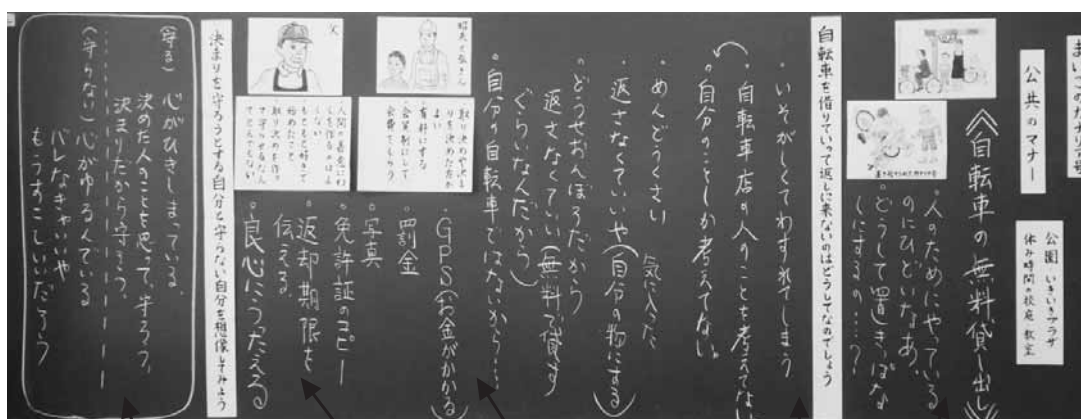
(8) 小学校5年生「まいごのカナリア号」②

①展 開

資 料 名	まいごのカナリア号	実施日 6月12日
内容項目	公共物を大切に 4-(1) 公德心、規則の尊重、権利・義務	
ね ら い	社会全体をより良くするために公德心を大切にし、マナーやエチケットの重要性を感じながら、社会生活の中で自分の権利や義務を考える態度を養う。	

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	見取 視点
価値の方向付け	1 公共の場で迷惑だと思ったり、不快になったりした体験について発表し合う。	3	○みんなが使う場所でいやな気分になったことはありませんか。	①
価値への追求把握	2 資料「まいごのカナリア号」を読んで話し合う。	29	○せまい道に横たえられ、塗料がはがされたカナリア号を見て、父や昭夫や弘さんたちはどんな気持ちになったでしょう。 ○自転車を借りて行って返しに来ないのはどうしてなのか、グループで話し合ってみましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">利用者がカナリア号をきちんと返すようにするためにはどうしたら良いか、グループで話し合ってみましょう。</div>	①② ①② ①② ③④
価値の内面的自覚	3 自分たちの生活をふり返らせ、きまりやマナーについて話し合う。	10	○きまりを守る気持ちをもった自分と、守らない自分を想像し、ワークシートに書いてみましょう。	①⑧
終 末	4 「まいごのカナリア号」の話の結末を聞く。	3	◎資料の結末の部分を読み、利用者を信じる「良心にうったえる」方法をとったことを伝えて授業を閉じる。	

②板書・発問・ワークシート等の工夫



始めに、置き捨てられた自転車を見た昭夫たちの悲しみや怒りを押さえた後、自転車を返さない人たちの気持ちについても考えさせた。

マナーを守らない人たちへの憤りを感じさせるとともに、自転車を返さない人たちの気持ちを考えることで、自分自身も日常生活の中で些細なマナー違反をしてしまうことを想起させ、中心発問での考えの深まりにつなげていくようにした。

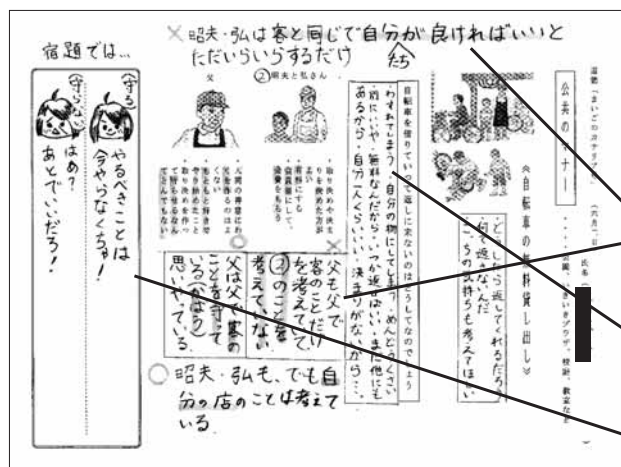
中心発問ではグループでの話し合いを取り入れ、登場人物の立場に立って、抱えている問題の解決法について考えさせた。

昭夫と弘さんの考えを支持する意見が多く出たため、父の考えについても考えるよう促した。

振り返りでは「きまりを守る自分」「守らない自分」それぞれのときの自身の心情について考えさせ、わがままや、自己中心的な考え、思いやり、公德心などが自身の判断や行動の基になっていることに気付かせる。

【問題解決的な学習】

【読み物資料の登場人物への自我関与が中心の学習】



【ワークシートによる見取】
※次ページ評価シート6番の児童のワークシート

見取の視点①・②・⑤に○

見取の視点④に○

見取の視点⑧に○

③評価シート

No.	氏名	性別	①意欲的に考えることができた	②登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている	③道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている	④友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている	⑤複数の道徳的価値の理解をもとに、多面的・多角的に考えようとしている	⑥道徳的な正しい判断をしている	⑦これからの自分の生き方について考える姿が見られる	⑧自分の考えを見つめなおし価値の理解を深めようとする姿勢が見られる	
1		女	○					○			
2		男								○	
3		男	○								
4		男	○				○			○	
5		女	○	○		○		○			
6		女	○	○		○	○			○	
7		女									
8		男	○					○			
33		女	○								
34		男								○	
集計			21	6		7	9	10		16	
			ワークシート・観察	ワークシート・発言		ワークシート・観察	ワークシート・発言	ワークシート		ワークシート	

④考 察

- 善意で自転車を貸し出しているにもかかわらず、返さない人の多さに心を痛めている自転車店員の気持ちと、自転車を返さない人の気持ちの両方を考えさせるときに、今までの自身の体験と関連させて考えさせるようにした。
- 話合いの活性化を図るために資料の結末を読まずに行った。終末で資料の結末を知り、「良心にうったえる」という性善説的な方法に心を動かされた児童が多く見られた。
- 授業中の見取りの記録が行いやすいように座席表を活用した。板書を撮影し、発言者の確認・記録を行った。
- ワークシートについては、各記述箇所について観点を決めて見取を行った。
- 中心発問では、GPSを取り付ける、罰金を取る、免許証の提示、会員制にするなど、性悪説的な意見が多く、「父」のような性善説的な意見が見られなかった。父の考えについての意見が出るような補助発問の工夫が必要である。
- 本時のねらいや見取りの視点に即した発問やワークシートの工夫が必要。

(9) 小学校6年生「図書館員のなやみ」

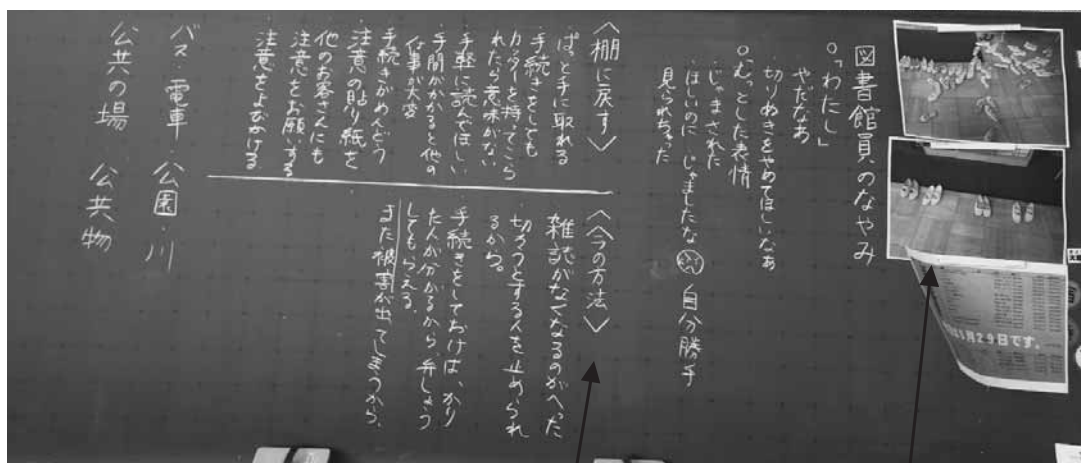
①展 開

資 料 名	図書館員のなやみ	実施日	5月30日
内容項目	規則の尊重、公德心		
ね ら い	公共物や公共の場で他者のことを考えて行動することの大切さに気付 き、法やきまりを守って生活しようとする態度を養う。		

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	見取 視点
価値の方向付け	1 2枚の写真を見て感想を話し合う。	5	○2枚の写真を見て、どんな感想をもちますか？ ◎学校生活の写真を提示することで、資料と身近な問題として捉えられるようにする。	
価値への追求把握	2 「図書館員のなやみ」を読んで話し合う。	30	○「わたし」はため息をつきながら、どんな気持ちでいるのでしょうか。 ・どうしたらいいのだろう。 ・困ったな。 ○むっとした表情の人はどんなことを考えているのでしょうか？ ・どうしてわたしだけ注意をするの。 ・わたしくらいやってもいいでしょ。邪魔しないで。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">図書館員はこれからどうすべきだと思いますか。</div> ◎図書館員になりきって発言できるように、2つの立場に分かれて考える。 ・被害が減ってきているのだから、このまま続けた方がよい。 ・もっと気軽に本や雑誌を読んでもらいた いので、今まで通り棚に戻した方がよい と思う。	②
価値の内面的自覚	3 今日の学習を振り返り、これからの自分について考える。	5	○今までの自分の生活を振り返り、これからどのように生活していきたいですか。	⑥⑦
終 末	4 教師の説話を聞く。	5	◎他者のことを考え、きまりを守って行動した ことについて話をする。	

② 板書・発問・ワークシート等の工夫

板書・発問



工夫①
自分たちの身近な問題であるという意識を持たせるために、学校の図書室の様子や貸し出し期限を守れていない児童数を調べ、掲示した。そのため、資料の内容に入り込みやすくなった。

工夫②
図書館員としてどのような行動したら良いか、二つの立場に分かれて考えたので、意見の違いが明確になるように上下に分けて板書した。

工夫③
話合いが進むにつれて、被害を減らす方法にばかり意見が集中してしまったので、もう一度「むっとした表情」に注目させ、自分勝手な行動が周囲へ迷惑をかけていることに気付かせようとした。

ワークシート

<p>○図書館員はどうするべきだと思いますか？</p> <p>（意見を書き、今の方法を挙げる）</p> <p>は、と手に取って読むことが出来る。今の方法を続けても、また取り取られてしまうかもしれないから意味がないと思う。</p>	<p>○図書館員はどうするべきだと思いますか？</p> <p>（意見を書き、今の方法を挙げる）</p> <p>今の方法を続けるべきだと思います。今の方法を続けるべきだと思います。今の方法を続けるべきだと思います。</p>
--	--

後段で、今までの自分を振り返り、これからの自分について考える設問を入れ、道徳的な判断やこれからの自分の生き方について見取ることができるようにした。

自分の考えを明確にするため、選択肢を用意し、意見を書かせた。意見をまとめておくことで、その後の話合いで、発言しやすくなった。

③評価シート

No.	氏名	性別	①意欲的に考えることができた	②登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている	③道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている	④友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている	⑤複数の道徳的価値の理解をもとに、多面的・多角的に考えようとしている	⑥道徳的な正しい判断をしている	⑦これからの自分の生き方について考える姿が見られる	⑧自分の考えを見つめなおし価値の理解を深めようとする姿勢が見られる	
1		男						○			
2		男	○	○							
3		男	○					○	○		
4		女	○								
5		男	○	○				○	○		どうしたらより良く利用してもらえるかを考えていた。
6		男	○								
7		女	○	○				○			
8		女	○						○		本の貸し出し期限を守れるようになった。
13		男	○	○				○	○		どうしたら気持ち良く利用してもらえるかを良く考えていた。
14		女						○	○		
15		男	○	○							積極的に話し合いに参加し、どうしたら本を守れるかを良く考えていた。
21		女									
22		男									
集計			16	10				11	7		
			観察	ワークシート 発言				ワークシート 事後の行動			

④考 察

- 実際の休み時間の図書室の様子を写真で示したことにより、自分たちに身近な話として考えることができた。
- 2つの立場に分かれて意見を交換し合うことで、文章で自分の気持ちや考えをまとめることが苦手な児童も、自分の考えを発表することができていた。
- 授業の中で見取ることができなかった児童についても、ワークシートを使用することによっていくつかの視点について見取ることができた。
- 授業で扱う価値によっては見取りづらい視点もあるため、事前にどの発問でどの視点を見取るのか明確にしておかないとワークシート等で授業後に見取った場合視点がブレてしまう。
- 発言することも文章を書くことも苦手な児童をどのようにして見取るかが難しい。

(10) 中学校 1 年生「選手に選ばれて」

①展 開

資 料 名	選手に選ばれて	実施日	5 月 31 日
内容項目	4 - (1) 遵法、権利義務、社会の秩序と規律		
ね ら い	集団と自己との関連を考えて権利を正しく主張するとともに、義務を厳しく遂行しようとする態度を育てる。		

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	見取 視点
価値の方向付け	1 クラスで行われている多数決に不満を持った経験を発表する。	8	○「多数決に不満を持ったことがあるか」について、思い出し気軽に箇条書きで書くようにさせる。	
価値への追求把握	2 「選手に選ばれて」を読んで話し合う。	25	○A 君の言っている「自由」についてどう思うか。 ○クラスみんなの意見をどう思うか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「選ばれた以上、クラスの代表として出場する義務がある」というみんなの意見をどう思うか。</div> ・もっと一人一人の意見を聞いてから決めるべき。 ・みんな平等にすべきなので、出場させられるのはひどい。	② ② ④
価値の内面的自覚	3 集団生活の中で、権利が大切か義務が大切かと悩んだ経験を発表する。	12	○集団生活の中で、権利が大切か義務が大切かと、なやんだり困ったりしたことはありますか。 ・募金を呼びかけても、勝手だろうと言ってあまり協力してくれない。 ・「並んで」と言ってもうるさくて聞いてくれない。 ◎学級委員や専門委員、清掃班長など、全体に呼びかける立場と、言われた方の立場の両方になった場合のことを思い出させながら書かせる。	⑥
終 末	4 教師の話を聞く。	5	◎身勝手さや自己本位の態度ではなく、正しい権利の主張と義務の遂行によって、自分たちの権利も保障されるし、集団の和も保たれることに気付くようにしたい。	

②板書・発問・ワークシート等の工夫



工夫②

「賛成」「反対」を板書することで、その意見に対し様々な反応が見られた。自己主張の強い生徒や忍耐強い生徒など、それぞれの考えをディベート感覚で考えることができていた。

工夫①

A君、クラスみんなの立場がそれぞれ分けて理解しやすいように、意見の上にそれぞれのイラストを掲示した。一人対数人というイメージも表現でき、本文の内容を感覚的に理解させながら考えさせることができた。

③ワークシートの工夫

23 選手に選ばれて	名前 23番
<p>1 クラスなどで行われている多数決に不満を持ったことはありませんか。</p> <p>6年時の時のクラスの勉強の班の班長を決める時は決まらなかった。</p> <p>2 次の2つの立場について、それぞれどう思いますか。</p> <p>A君の言っている「自由」について</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>「選ばれた以上、クラス全員の代表として出場する義務がある」という意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手になったときの勉強の進めはどうする。 ・勝手に選んで出て、出るといふのは暴力。 ・個人の気持ちを尊重してほしい。 <p>A君は勉強が苦手な人でも、勉強が得意な人でも、みんなが選んで選ばれる権利がある。だから、みんなが選んで選ばれる権利がある。だから、みんなが選んで選ばれる権利がある。</p> <p>自分が選んで選ばれる権利がある。だから、みんなが選んで選ばれる権利がある。だから、みんなが選んで選ばれる権利がある。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>「選ばれた以上、クラス全員の代表として出場する義務がある」という意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手で選ばれて、クラス代表で出る責任がある。 ・いやだから出ないというはただの自分勝手。 ・勉強は個人のこと、体育祭はクラス全体のこと。 <p>皆がA君の意見を尊重して考えている。だから、みんなが選んで選ばれる権利がある。だから、みんなが選んで選ばれる権利がある。</p> <p>自分が選んで選ばれる権利がある。だから、みんなが選んで選ばれる権利がある。だから、みんなが選んで選ばれる権利がある。</p> </div> </div>	

3 集団生活の中で、権利がほしいか義務がほしいかと、なやんだり困ったりしたことがありますか。

皆の意見も大切だけど自分の意見も大切。全員立場は一緒。

3 集団生活の中で、権利がほしいか義務がほしいかと、なやんだり困ったりしたことがありますか。

クラス全員の代表として責任があるのもいいけれど、やっぱり個人の気持ちの方が大切だと思います。

はじめはA君の自由を尊重する意見が多かったが、「賛成」「反対」両方の意見を考えさせることで、それぞれの立場になって考えることができた。どちらか一方でなく、お互いの立場で、尊重すべきことや優先順位をつけることなど、考えを深めることができた。

④評価シート

No	氏 名	性別	きた意欲的に考えることができた	①自分の考えを表現すること	②自分の考えを他人の考えと比較すること	③自分の考えを他人の考えと比較すること	④自分の考えを他人の考えと比較すること	⑤自分の考えを他人の考えと比較すること	⑥自分の考えを他人の考えと比較すること	⑦自分の考えを他人の考えと比較すること	⑧自分の考えを他人の考えと比較すること	⑨自分の考えを他人の考えと比較すること	⑩自分の考えを他人の考えと比較すること
1		男	○										
9		男	○	○		○							いろいろな立場の人のことを想像して意見が考えられた
10		女		○		○							先生の意見を真実に聞き、それを取りつつ理解しようとしていた
11		女	○										
12		女	○	○		○							和田金井と郷人に立って、それぞれの考えを表現しようとした
17		男	○			○							いろいろな立場から自分の考えを述べた
21		男						○					「人の権利を隣外に与える義務はあったらどうだ」と思う
22		男											
23		女	○	○				○					和田金井の感情を表現して考えていた
27		女	○	○									自分のこととして見据えて考えられていた
31		男	○			○							
集計			9	7		5		2					
			観察	ワークシート		ワークシート		ワークシート					

⑤考 察

- 学校生活にも慣れ、自分の考えどおりに行動したいという欲求が少しずつ見えてくる時期だと思う。体育祭に勝ちたいと思う一方、自分のやりたくないことから逃げたい、誰かに任せてしまえば良いという気持ちも個人差はあるがなくてはならない。そんな日常生活の行動と授業での意見の比較は、生徒理解に大変参考になった。権利ばかりを主張する生徒、集団としての役割について考えられる生徒、個人と集団両方を大切にしようとする生徒など日頃の様子からなるほどと思える生徒や、意外な答えをする生徒など様々な反応が見られて良かった。
- ワークシートを工夫することで、違ったそれぞれの立場を理解させることができた。個人の権利を主張していた生徒も、集団としての意見を書かせることで、理由なく主張するだけではみんなを納得させられないことが感じられたと思う。この発問で「友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている」「道徳的な正しい判断をしている」という見取をすることができた。
- 評価シートを活用することで、この題材では「他者理解」「道徳的判断力」に絞って授業ができた。見取ろうとする項目に合わせ、発問やワークシートなどが工夫できるので授業が組み立てやすい。
- 一定期間での観点ごとの推移を集計して傾向はでるが、言葉での評価のための資料とするには、もう少し工夫が必要と思う。道徳の授業での評価であるから、総合の所見とは違ってくると考えられる。

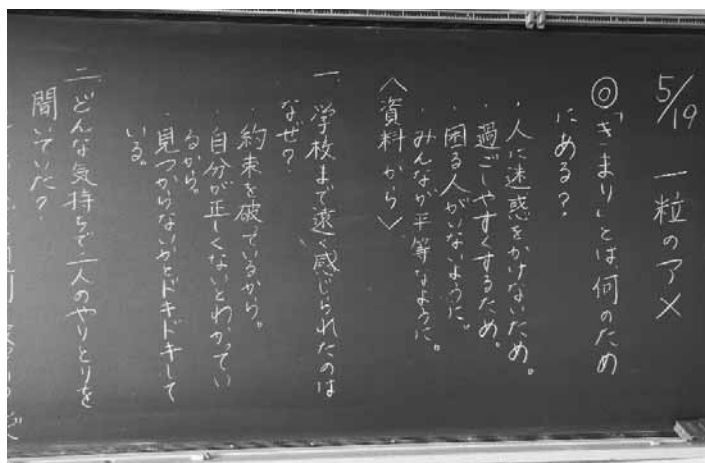
(11) 中学校1年生「一粒のアメ」

①展 開

資 料 名	一粒のアメ	実施日	5月19日
内容項目	10 遵法精神・公德心		
ね ら い	きまりの意義を理解し、進んできまりを守ろうとする態度を養う。		

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	見取 視点
価値の方向付け	1 きまりとは何のためにあるのか考える。	5	◎「きまりとは何のためにあるのか」という質問を全体に投げかけ、考えさせる。数名指名し、考えたことを発表するようにする。	
価値への追求把握	2 資料「一粒のアメ」をもとに話し合う。	30	○寛はなぜ学校に着くまでの時間を長く感じたのだろうか。 ・悪いことをしていることがわかっていたから。 ・先生に見つからないかとドキドキしていたから。 ○寛は、昇と和男のやりとりをどんな気持ちで聞いていたのだろうか。 ・昇はまたきまりを破ろうとしているけど、本当にいいのだろうか。 ・和男はえらいな。自分だったら言えない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">寛には、机の上のアメがどうして大きく感じられたのだろうか。</div> ◎アメを食べるべきか、食べるのをやめるべきか、葛藤している寛の気持ちを共感的に把握させる。 ・食べてしまうと二度も校則に違反してしまうという、後ろめたい気持ちがあったから。 ・断ることができた和男の存在のように大きく感じた。	② ① ③
価値の内面的自覚	3 その後、寛がアメを食べたかどうかを考える。	10	○この後、寛はアメを食べただろうか、それとも食べなかっただろうか、理由を含めて考え、グループ内で発表しよう。 ◎この後の展開を予想させることを通して、きまりを守ることの大切さを考えさせたい。	⑥ ④
終 末	4 教師の話を聞く。	5		

②板書・発問・ワークシート等の工夫



工夫①

発問「きまりはなぜあるのか」

小学校の頃から「きまりを守ろう」ということは言われてきているので、その意義について質問した。今までの経験などを振り返り、思い思いの答えを発表していた。



工夫②

形態 グループでの意見交換

これまでの経験から、寛に対する感情もさまざまであり、寛がアメを食べるか、それとも食べないか、それぞれの理由もさまざまである。友達との意見交換の中で、きまりを破ってしまいたい欲求と葛藤しながらも、きまりを守る大切さに気付けるようにした。また、授業中に見取ったことを、視点④「友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている」の評価に生かした。



工夫③

イラスト入りワークシートの活用

登場人物のイラスト入りのワークシートを使うことによって、心情の理解を助ける。視点②「登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている」の評価に生かした。

③評価シート

No.	氏名	性別	①意欲的に考えることができた	②登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている	③道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、考えようとしている	④友達の意見を聞き、自分と違う意見を理解しようとしている	⑤複数の道徳的価値の理解をもとに、多面的・多角的に考えようとしている	⑥道徳的な正しい判断をしている	⑦これからの自分の生き方について考える姿が見られる	⑧自分の考えを見つめなおし価値の理解を深めようとする姿勢が見られる	
1	欠席	男									
2		男			○			○			
3		男	○			○					
4		男	○	○				○			
5		男	○			○					
6		男				○					
7		男	○	○				○			
8		男	○	○		○					自分だったら食べてしまうかもしれない。
9		男	○	○							
10		男	○								
11		男	○			○					
12		男	○	○				○			
13		男	○	○				○			
14		男	○	○				○			
15	欠席	男									
16		女	○	○				○			和男のような心になりたいと思っている。
17		女	○			○		○			
18		女	○	○				○			
19		女	○	○	○			○			
20		女	○	○				○			
21		女	○	○				○			
22		女	○	○				○			
23		女	○	○				○			
24		女	○	○	○			○			友達との関係を考えると難しいときもある。
25		女	○	○		○		○			
26		女	○					○			

④考 察

- 評価シートを用いることで、生徒をこの視点で評価をしようとあらかじめ考えてから授業を行うことができた。
- 実際に、学年でお菓子を食べてしまう事件があったので、非常にタイムリーな資料で考えることができた。
- 毎回、授業後に評価シートで全員を評価することは、かなりの手間がかかった。
- 数名の生徒に限定し、記述で授業の様子を記録しておく方法もあると考えた。

V 成果と課題

(1) 成 果

- ①発問（ワークシートの設問）と見取の視点との関連を明らかにしておくことで評価がしやすくなった。
- ②ワークシートを工夫して活用することにより、授業後にもいくつかの視点について見取ることができた。また、選択式アンケートを設けることで、記述が苦手な児童生徒の変容の見取に生かすことができた。
- ③事前事後アンケートを行うことで、児童生徒の変容を見ることができた。
- ④見取シートを蓄積していくことで、児童生徒の変容を見ることができた。また、変容が見取りづらい児童生徒に対する手立てを考えることもできた。

(2) 課 題

- ①評価シートをより活用しやすく改善していく必要がある。
- ②発言や記述が苦手な児童生徒を見取るより良い方法について具体的に考えていく必要がある。
- ③評価シートを道徳の所見欄にどう反映させていくかさらに考えていく必要がある。
- ④評価シート以外の評価方法も研究していく必要がある。